

平成 29 年 9 月 28 日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部
広報・渉外課

観光×防災 情報発信プロジェクト in 青島 実証試験 第2ステージ開始について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本学の教育・研究・社会貢献活動についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私たちの研究チームでは、昨年 12 月末より青島エリアにおいて、協力いただける機関にサインボードを配置させていただき、QR コードを介して観光情報と防災(津波避難)情報を配信するサイトにどのくらいの方がアクセスしていただけるか、を検証する実証試験を実施しています。これは、観光地での一時滞在者が、観光地情報を見る際に同時に防災情報を目にする、というものです。現地情報を得にくい観光客が、平常時にはその地点から最短の災害発生時の避難先を確認し、ここにアクセスしておくことで、津波発生時にはスマートフォンの地図アプリを利用して避難所へ誘導される、という仕組みです(資料参照)。

このたび、10 月 1 日より、地域資源創成学部 宮木健二准教授のデザインによるインパクトのある右のサインボードを設置することとしました。サインを見た方により親しみと関心を持っていただき、情報にアクセスしやすくなるようこと考案しています。これにより、観光地青島で、防災情報を併記した観光情報が、デザインによってさらに活用される可能性を評価したいと考えています。

つきましては、この実証試験を多くの皆様に関心を持っていただけるように周知していただき、取材していただければ幸いです。



B イエロー編【改良型】 人物イラストを入れて柔らかく親しみやすい印象に
家族や友人を家しませる、守る、アクセスしてもらいたいターゲットを具体化しました

敬具

観光×防災情報プロジェクト in 宮崎・青島

宮崎大学工学部 教授 村上 啓介，同大地域資源創成学部 准教授 宮木 健二，
同大産学・地域連携センター，株式会社システム開発

大規模災害（津波災害）に対して，一時滞在者（観光客やサーファー等）を対象とした適切な避難情報の発信手段の整備は観光資源の付加価値を高める



津波避難情報を “だれでも、いつでも、どこでも、簡単に” 入手できるシステム

一時滞在者を対象とした避難情報提供システムのポイント

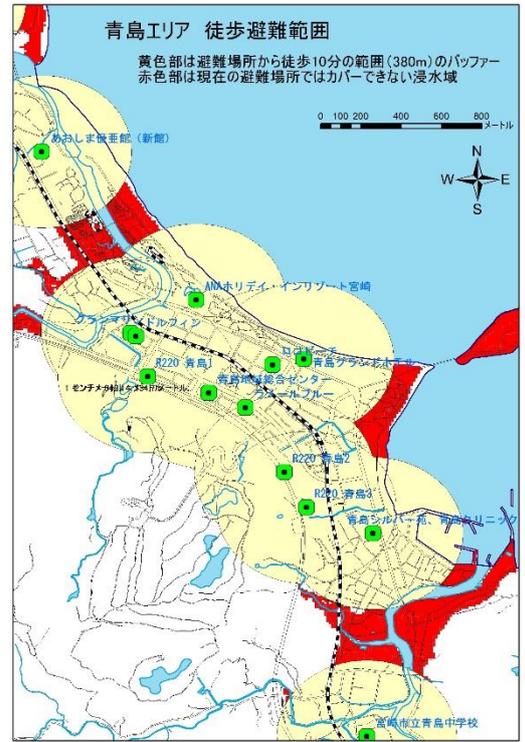
- 1) ユビキタスな情報提供システム → スマートフォンを活用
- 2) 平時でも利用される情報提供システム → 観光情報との共存
- 3) タイムリーな情報提供システム → Web を通じた情報提供

システム導入のメリット

- 1) だれでも、いつでも、どこでも、簡単に防災情報が入手できる
- 2) 観光情報等の平時情報と共存させることで利用率の向上が可能
- 3) デザインやコンテンツの更新が容易で景観を損なわない
- 4) 事前防災システムとして、あらゆる自然災害に対応可能

将来展開

- 1) 高精度位置情報を用いたリアルタイム避難ナビシステム
- 2) 観光 WiFi スポット等を利用したプッシュ型情報提供
- 3) リアルタイム避難所情報を組み込んだ情報システム



【システムの概要】



情報アクセスカード
(デザイン化)

サーバ経由

携帯端末でQRコード
の読み取り

携帯端末画面上に
観光情報
防災情報
(多言語化)

観光情報ポータル
サイトを表示

津波避難場所への
経路、距離、
時間を表示



【本件担当者】 宮崎大学産学・地域連携センター 西片 (にしかた)

【担当者】

宮崎大学工学部 村上啓介
地域創生学部 宮木健二
工学部 岡崎直宣
(株)システム開発

【問い合わせ】

宮崎大学産学・地域連携センター
西片 奈保子